公立・公的医療機関の対応方針一覧（前橋保健医療圏）①

（2024年3月時点）

1．基本情報		2．病床について																		
医療機関名		現在（A）						将来（2025年）（B）							差（B-A）					2025年に向けた病床活用の見通し等 ※公立：公立病院経営強化プランの概要「経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像」「当該病院に係る機能分化・連携強化の概要」から抜粋 ※公的：公的医療機関2025プラン「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」から抜粋
		合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
群馬大学医学部附属病院	公的	680	680					680	680											1．地域において今後担うべき役割 地域医療及び先端医療への社会の要請に応えられるよう，高度な医療安全管理体制を確保したうえで先進的医療の提供を推進する。また，県内のがん診療の中心的役割を担う。 ・群馬県統合型医療情報システムを活用し，救急患者の速やかな受入れや患者の状態に応じた転院が円滑に行えるよう，県内の全救命救急センター及び救急告示病院との連携を強化し，超高齢社会における高度急性期病院としての体制を整備し機能を充実させる。 ・群馬県地域医療支援センターと連携して地域医療に熱意を持った若手医師を育成する。地域への若手医師の定着を図るため，平成30年度から運用が開始された新専門医制度を踏まえ，県内基幹病院が作成した基本領域の専門研修プログラムを若手医師が選ぶことが出来るよう「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパスVer.2」を作成した。若手医師が群馬県内の医療機関や研修施設で充実した研修を行い，ライフイベントやキャリア形成に不安を抱えることなく基本領域の専門医資格を取得出来るよう，さらに将来の群馬県の地域医療を担う医師として活躍出来るよう，“オールぐんま”で支援していく。 ・群馬県域の医師配置等の適正化や，医師を始めとする医療スタッフの人材交流・育成等を行い，地域医療の質と安全の向上に寄与する目的で，群馬県保健福祉部の支援も受け，平成29年11月に「地域医療研究・教育センター」を設置した。センターは，医療関係団体等が協調・連携して平成30年3月に設置した「ぐんま地域医療会議」の事業を支える役割として，また，県内医師配置の適正化など，県域の医療事情の調査・検証，全県体制での医師を始めとする医療スタッフの教育支援・研究支援等を実施する。 2．今後持つべき病床機能 当院は，今後も基本的には高度急性期病棟及び急性期病棟を維持し，超高齢社会における医療の中核を担う。
前橋赤十字病院	公的	527	487		40			527	487		40									1．地域において今後担うべき役割 群馬県立の総合病院、前橋市民病院に近い立場の病院として、今後、以下の役割を担うと考えます。 （１）第３次救急病院としての役割 ・高度急性期病院として、前橋市内並びに群馬県内の医療機関で対応できない外傷、疾病に対応しうる機能を維持・強化します。 ・県内消防との連携を強化し、ドクターヘリの運用を維持・強化します。併せて、前橋市内におけるドクターカーの運用を更に強化し、推進します。 （２）地域医療支援病院としての役割 ・紹介、逆紹介を推進し、地域の医療機関との連携を強化します。 （３）在宅医療や介護との連携における役割 ・社会福祉士、退院支援看護師等の介入によるケアマネジャーとの連携を強化し、更なる退院支援や在宅復帰支援の充実を図ります。 ・緩和ケアチーム、皮膚・排泄ケア認定看護師、ＮＳＴなどチーム医療や認定看護師と連携し、付帯する訪問看護ステーションとの連携強化を図ります。 （４）地域医療構想を踏まえた新たな役割 ・前橋構想地域において不足する回復期機能の一翼を担います。 （５）その他 ・精神科領域を合併した患者への対応体制を強化します。 2．今後持つべき病床機能 第３次救急病院としての機能を維持しつつ、群馬県地域医療構想に鑑み、前橋構想区域の医療資源の充実に資するため、以下の機能を担います。 （１）高度急性期機能の強化（２０１８年６月～） ・ICUの増床 ・救急病棟の増床 （２）高度急性期機能を補完する機能の設置（２０１８年６月～） ・身体合併症対応の精神科病床の開設 ・回復期病床の開設
独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院	公的	333	5	328				333	5	328										1．地域において今後担うべき役割 前橋市地区を超える広い範囲での一部の急性期疾患に対する機能を維持します。消化器内科・外科は、内視鏡を中心とした消化器疾患の治療、整形外科は膝を中心とした下肢の疾患、脊椎の治療、産婦人科は婦人科疾患に対するとともに不育症治療・周産期医療及び当院だけが持つ生殖医療、小児科は現医療体制を維持し、新生児も含む小児2次医療の中心的役割を果たします。 内科は市民病院的な要素が必要であり、循環器、神経、糖尿病などとともに一般内科の充実を図ります。また、老健との連携を図り、地域包括ケアを実践します 。 また、在宅医療等の医療需要の増加が見込まれることから、入退院センターの充実強化を図り、安心して治療に専念していただけるよう、患者・家族を支援していくことが重要と考えます。 2．今後持つべき病床機能 今後、当該構想区域は小児・分娩数などが減少しますが、他院のベッド数が減ることも考えられ、当院のベッドも調整する必要が出てくる可能性がありますが、小児・周産期の病床機能を維持します。 また、成人の高度急性期、急性期疾患は大きな変化はないと考えられることから病床機能を維持することが必要であります。慢性期の病棟としても、地域包括ケア病棟・老健の機能充実することが必要であります。つきましては、入退院センター及び地域連携室等を活用し、病床機能を有効活用するとともに、構想区域等における医療から介護までの提供体制間のネットワークを強化し、地域包括ケアの推進及び効率的な運営を図ります。その後、急性期病棟から地域包括ケア病棟及び回復期病棟への運営方針の見直しを含め検討します。
群馬県済生会前橋病院	公的	323	61	240	22			317	61	234	22				▲ 6		▲ 6			1．地域において今後担うべき役割 当院は、これまでにも地域医療に貢献するため、二次救急医療、災害拠点病院、更には地域医療支援病院や群馬県がん診療連携推進病院などの要件を確保してきた。 少子高齢化が進む中で、当院の専門性の高い血液内科や高度技術となる肝・胆・膵の外科、手の外科などの資格要件を満たした指導医を確保し続け、基幹病院との連携を緊密に保つことで安定的に医師を確保し、高度急性期、急性期病院としての役割と、地域の開業医等との連携強化を進め、地域医療支援病院に求められる救急医療や地域医療の充実に努める。 更には、訪問看護事業や、地域から求められる地域包括ケアシステムの構築に向けた体制づくりの役割を果たす。 また、済生会の果たすべき使命として位置付けた３本柱である「生活困窮者への援助の積極的推進」、「地域医療への貢献」、「総合的な医療・福祉サービスの提供」を果たして行く。 2．今後持つべき病床機能 現在当院の病院は、高度急性期病床が６１床、急性期病床が２４０床、回復期２２床で運用している。 病床利用率については、急性期病院特有の土日の患者数の減少により、８０%近くで推移しているが、冬場など、感染症患者が多い季節については、現在の病床数でも不足することが多々あることも事実である。 今後も、専門性の高い医療をより多くの患者さんに提供をすることと、高齢化に伴う疾患の変化への対応も考えながら、現在の急性期病床を維持していくこととする。
群馬県立心臓血管センター	公立	195	15	175	5			195	15	175	5									1．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 県立の心疾患専門病院および県内心疾患医療における高度専門医療の拠点として役割を果たし、関係医療機関と連携しながら、県民に安全、安心で質の高い医療を提供している。また、将来にわたり健全な経営を維持できるよう、経営強化の取組を進め、経常収支が黒字化している。 2．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 県立の心疾患専門病院として、高度・先進医療の検討を進め、地域連携等による患者ニーズの洗い出し及び必要な診療体制等の充実に取り組む。 また、地域医療支援病院として、登録医大会や症例検討会、施設訪問等を通じて、地域の病診・病病連携を一層推進し、地域連携室を中心により強固な連携体制を構築する。

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（前橋保健医療圏）②

（2024年3月時点）

1．基本情報	3．医療機能について																								
医療機関名	診療科目	診療科一覧	現在											将来（2025年）											
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児
群馬大学医学部附属病院	23	内科，循環器内科，神経内科，外科，心臓血管外科，整形外科，脳神経外科，形成外科，精神科，小児科，皮膚科，泌尿器科，産科，婦人科，眼科，耳鼻咽喉科，リハビリテーション科，放射線科，病理診断科， 臨床検査科，救急科，歯科口腔外科，麻酔科	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○
前橋赤十字病院	31	総合内科、感染症内科、糖尿病・内分泌内科、リマウチ・腎臓内科、血液内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管内科、小児科、整形外科、形成・美容外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科、臨床検査科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院	24	内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科、小児科、小児外科、外科、消化器外科、肛門外科、緩和ケア外科、病理診断科、整形外科、産婦人科、精神科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、歯科	○			○			○	○		○	○	○			○			○	○		○	○
群馬県済生会前橋病院	29	内科、血液内科、腎臓リウマチ内科、人工透析内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、心臓内科、血管内科、小児科、外科、胃腸外科、大腸・肛門外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、リハビリテーション科、心臓血管外科、泌尿器科、眼科、放射線科、麻酔科、ペインクリニック内科、ペインクリニック外科、病理診断科、緩和ケア内科	○		○	○			○	○				○		○	○		○	○	○			
群馬県立心臓血管センター	12	循環器内科、心臓血管外科、内科、外科、消化器外科、整形外科、神経内科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、呼吸器内科、呼吸器外科			○				○							○				○				

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（渋川保健医療圏）①

（2024年3月時点）

1．基本情報		2．病床について																		
医療機関名		現在（A）						将来（2025年）（B）							差（B-A）					2025年に向けた病床活用の見通し等 ※公立：公立病院経営強化プランの概要「経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像」「当該病院に係る機能分化・連携強化の概要」から抜粋 ※公的：公的医療機関2025プラン「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」から抜粋
		合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	公的	400		275	25	100		400	4	265	25	106				4	▲ 10		6	1．地域において今後担うべき役割 ・北毛地域の基幹病院として地域の医療機関との診療機能の連携により高度な医療を提供する体制を整備し、地域完結型を目指す。 ・地域の二次救急医療機関として救急受入体制の充実・強化を目指す。また、渋川医療圏唯一の災害拠点病院として災害時に高度な医療を提供出来る体制を構築する。 ・群馬県が現在策定検討している第８次保健医療計画のなかで、当院の診療実績等を踏まえ、がんに関する圏域の沼田圏域が見直され、沼田・吾妻・渋川・前橋の各二次保健医療圏の関係機関が連携して医療需要に対応することとなる。当院は地域がん診療連携拠点病院として診療体制、病・病連携、病・診連携、診療従事者、相談業務等の充実を図っていく。 ・地域医療支援病院として引き続き紹介患者の受け入れ、医療機器の共同利用、救急医療の提供及び地域の医療従事者に対する研修の実施等についての役割を担っていく。 ・当院は、群馬県で初めて緩和ケア病棟設置した経緯もあり、積極的に緩和医療に取り組んでおり、引き続き、緩和ケア体制を維持および 在宅緩和ケア患者の支援を強化していく必要がある。 ・当院は独立行政法人国立病院機構に属しており、組織としてのミッションの一つとして、「重症心身障害児（者）医療」を掲げており、引き続き医療提供体制の維持をしつつ、 超重症児・準超重症児の受入を含め、 群馬県保健計画に沿った体制強化を行っていく必要がある。 また、多くの診療科を有する当院における重症心身障害児（者）病棟のため、その医療資源を十分に活用して新たな診療モデルの重症心身障害児（者）医療を展開していく。 2．今後持つべき病床機能 ・渋川医療センターの開院により、渋川医療圏内及び北毛地域の受け入れ等の実績が増加しており、引き続き、北毛地域の基幹病院との役割を果たしていく。 ・今後の当院における医療需要の動向等や、渋川地域保健医療対策協議会での議論を踏まえながら、検討していく。
県立小児医療センター	公立	150	41	109				150	41	109										1．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 県内唯一の小児専門病院および総合周産期母子医療センターとして役割を果たし、関係医療機関と連携しながら、県民に安全、安心で質の高い医療を提供している。また、将来にわたり健全な経営を維持できるよう、経営強化の取組を進め、経常収支が黒字化している。 2．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 登録医制度を活用した病診連携・病病連携を推進し、患者の紹介・逆紹介を積極的に行うことにより、さらなる医療の質の向上を目指す。また、入退院支援センターの整備を進めるとともに、重症心身障害児の家族支援に一層取り組み、患者や家族に寄り添ったケアを実施する。 さらに、県内唯一の小児専門病院としての機能強化、また総合周産期母子医療センターのあり方を含めた、病院再整備の検討を進めるとともに、再整備後を踏まえた院内の体制整備を進める。

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（渋川保健医療圏）②

（2024年3月時点）

1．基本情報		3．医療機能について																							
医療機関名	診療科目	診療科一覧	現在											将来（2025年）											
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児
独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	26	総合診療科、内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、内分泌・代謝内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、精神腫瘍科、小児科（重症心身障害児（者））、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、臨床検査科、麻酔科	○	○	○	○			○	○				○	○	○	○			○	○			
県立小児医療センター	16	小児科、小児外科、放射線科、麻酔科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、精神科、歯科、眼科、整形外科										○	○										○	○

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（伊勢崎保健医療圏）①

（2024年3月時点）

1．基本情報		2．病床について																		
医療機関名		現在（A）						将来（2025年）（B）							差（B-A）					2025年に向けた病床活用の見通し等 ※公立：公立病院経営強化プランの概要「経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像」「当該病院に係る機能分化・連携強化の概要」から抜粋 ※公的：公的医療機関2025プラン「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」から抜粋
		合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
伊勢崎市民病院	公立	490	156	317	17			490	156	317	17									1．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 高齢者人口が年々増加していく中、地域医療の中核を担う公立の総合病院として、二次救急を主体とした運営形態を維持することが重要と考えます。今後、受入数の割合が増す高齢者層については、多方面にきめ細やかな対応が求められると推測されることから、地域医療連携室を中心に実施しているＰＦＭ（Ｐａｔｉｅｎｔ　Ｆｌｏｗ　Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ）を更に充実させ、救急を含めた入院から退院、退院後のケアまでの体制の充実と高度化する医療への対応にも配慮し、高度急性期及び急性期医療を中心とした事業を展開します。 2．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 地域において急性期医療を担う基幹病院として他の医療機関との機能分担及び連携、更には介護・福祉等の各関係機関との連携強化を図ることは重要です。 当病院は、地域において高度急性期及び急性期医療を中心とした役割を保持し、各病院との連携を図り、地域医療構想調整会議等による情報交換に努めます。また、開業医との連携を図るため、訪問の強化や情報交換会を実施し、地域全体として必要な医療提供体制の確保に努めます。
伊勢崎佐波医師会病院	公的	255		153	52	50		255		153	52	50								1．地域において今後担うべき役割 「ほぼ在宅、時々入院」は地域包括ケアと入院医療との関係性をわかりやすく表現している。車の両輪として地域包括ケアと入院医療とが機能し合い、切れ目なくヘルスケアを補完し合う将来図は、これからの少子高齢化の日本を鑑み、重要である。このような思想のもとに、地域医療構想は"地域包括ケアシステムを下支えする入院医療提供体制"と意訳したのは、東京都医師会副会長の猪口正孝先生である。そういう意味では伊勢崎佐波医師会病院の存在と機能は既に"地域包括ケアシステムを下支えする入院医療提供体制"を備えていると言って過言ではない。在宅療養支援診療所を標榜している・していないに関わらず、地域のかかりつけ医は24時間365日稼働しているこの病院に恩恵を感じている。一方かかりつけ医のニーズは多様となっており、更に圏域の病院間の連携を考えたときに、（高度）急性期に対応するだけでなく、回復期に対応する機能を持つべきと考えた。 2．今後持つべき病床機能 1）地域包括ケア病棟に一病棟を転換する 地域として切れ目のないヘルスケアを行うことが求められているならば24時間体制の入院受け入れは高度医療や救急救命医療だけでなく急性期経過後に引き続き入院医療を要するポストアキュートや高度入院医療は必要ではないが在宅や介護施設等において症状の急性増悪したサブアキュートの受け入れと在宅への復帰を目指す病床を従来の救急医療を行っている当院が併せ持つ意義は大きいと考える。⇒令和元年10月より地域包括ケア病棟稼働（52床） 2）地域住民及び医師会員のための病院である姿勢は崩さない 平成27年末の整形外科病棟閉鎖やその後の常勤医師数の減少などの影響がみられない。地域住民や医師会員のための病院姿勢に変化がないからであり、今後もさらに利用しやすい病床の仕組みや入退院のシステムを再検討する。 3）小児救急（二次救急）を強化する 補助金確保が前提となるが、伊勢崎医療圏公的病院が、小児救急（二次救急）を担えていない現状からすると、地域の強いニーズがあり、伊勢崎市の少子化対策として、子育てのし易い街づくりに貢献する事ができる。

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（伊勢崎保健医療圏）②

（2024年3月時点）

1．基本情報	3．医療機能について																								
医療機関名	診療科目	診療科一覧	現在											将来（2025年）											
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児
伊勢崎市民病院	26	内科、精神科、脳神経内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、麻酔科、歯科口腔(くう)外科、緩和ケア内科、救急科	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○			○	○		○	○
伊勢崎佐波医師会病院	18	救急科、内科、循環器科、胃腸内科、糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、放射線科、耳鼻咽喉科、眼科、婦人科、病理診断科、歯科口腔外科	○	○		○			○	○			○	○	○		○			○	○			○

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（高崎・安中保健医療圏）①

（2024年3月時点）

1．基本情報		2．病床について																		
医療機関名		現在（A）						将来（2025年）（B）							差（B-A）					2025年に向けた病床活用の見通し等 ※公立：公立病院経営強化プランの概要「経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像」「当該病院に係る機能分化・連携強化の概要」から抜粋 ※公的：公的医療機関2025プラン「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」から抜粋
		合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	公的	479	479					479	479											・今後とも 、高度急性期医療機能の提供を維持し、救急医療、がん・悪性腫瘍に対する集学的医療、循環器疾患に対する内科的・外科的総合診療、呼吸器疾患等に対する医療、小児救急医療、地域医療支援病院としての総合診療、エイズに対する診療、地域災害拠点病院としての災害医療等の役割を担っていく。 ・新病棟の増築整備を計画的に進め、高度急性期医療機能の更なる拡大・充実を図り、高崎・安中構想区域のみならず、群馬県西毛地域における広域中核病院としての役割を果たしていくとともに、前橋構想区域へ流出している高度急性期・急性期の患者についても、可能な限り高崎・安中構想区域内で対応できるようにしていく。
医療法人社団日高会日高病院	公的	287	4	232	51			287	4	232	51									1．地域において今後担うべき役割 当院は、地域医療支援病院、地域災害拠点病院、群馬県がん診療連携推進病院、地域リハビリテーション広域支援センター、基幹型臨床研修病院（定員：6名）内科新専門医制度基幹病院（平成2018年度～）等の認定を受けていることから、高度急性期・急性期医療を提供する体制と回復期リハビリ機能を維持する考えである。 2．今後持つべき病床機能 現在、HCU（4床）であるが、更なる増床とICU取得も視野に入れています。今後の医療需要推移を加味して取得を決定し、適切な病床規模などについて検討したい。 3．その他見直すべき点 長期的な視点として緩和ケア病棟の導入を視野に入れています。今後の医療需要推移を加味して導入を決定し、適切な病床規模などについて検討したい。
公立碓氷病院	公立	149		50	49	50		149		50	49	50								1．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 高崎・富岡地区との連携を踏まえた救急医療の充実を目指すとともに、小児科の医師確保を図り、地域の小児医療を継続していきます。また、在宅医療の体制強化を図るために訪問看護の継続や訪問リハビリの体制強化を図ります。そして、災害時及び新興感染症等の発生時には、地域の医療を守る拠点として機能を維持する病院にする必要があります。予防の観点からも、健診の機能を持って病気の早期発見や診療の質向上を目指し、最終的には公立病院として一人世帯の患者の受入れや看取り等の最後の砦としての機能強化も果たしていきます。 2．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 当該公立病院の状況における課題について、公立・公的医療機関でなければ担えない機能として、高度急性期・急性期機能や不採算部門、過疎地の医療提供等があると思われますが、当院での治療が困難な症例については他の高度急性期医療機関が担い、高度急性期医療機関との連携を強めて、回復期段階にある患者の受入れや在宅復帰支援を行います。また、外来での継続治療の紹介を受けることで回復期・慢性期の医療機能を担っていきます。 高齢化の進展に伴い、患者の疾病構造は多様化しており、患者一人一人がその状態に応じた良質かつ適切な医療を安心して受けることができる体制を地域で構築することが求められています。地域医療連携推進法人もその達成のための一つの選択肢として考え、地域医療連携推進法人における連携強化について将来の人口減少や高齢化などの状況を安中市医師会の医療機関等と情報を共有し、限りある医療資源の有効活用について検討していきます。

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（高崎・安中保健医療圏）②

（2024年3月時点）

1．基本情報		3．医療機能について																						
医療機関名	診療科目	診療科一覧	現在											将来（2025年）										
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児
独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	29	内科、心療内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器 内科、リウマチ科、小児科、外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、形成外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○
医療法人社団日高会日高病院	43	内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・腫瘍内科・糖尿病内分泌内科・腎臓内科・内視鏡内科・人工透析内科・疼痛緩和内科・神経内科・外科・消化器外科・乳腺外科・肛門外科・腫瘍外科・肝臓外科・膵臓外科・胆のう外科・食道外科・胃腸外科・大腸外科・内視鏡外科・腎臓外科・人工透析、移植外科・ﾘｳﾏﾁ科・整形外科・泌尿器科・脳神経外科・心臓血管外科・眼科・皮膚科・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科・婦人科・救急科・麻酔科・放射線科・放射線治療外科・放射線診断科・腫瘍放射線科・病理診断科・歯科口腔外科	○	○	○	○			○	○				○	○	○	○			○	○			
公立碓氷病院	23	内科、循環器内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、人工透析内科、神経内科、外科、消化器外科、乳腺外科、肛門外科、胃腸外科、大腸外科、脳神経外科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、歯科、歯科口腔外科、リハビリテーション科						○	○		○		○						○	○		○		○

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（藤岡保健医療圏）①

（2024年3月時点）

1．基本情報		2．病床について																		
医療機関名		現在（A）						将来（2025年）（B）							差（B-A）					2025年に向けた病床活用の見通し等 ※公立：公立病院経営強化プランの概要「経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像」「当該病院に係る機能分化・連携強化の概要」から抜粋 ※公的：公的医療機関2025プラン「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」から抜粋
		合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
公立藤岡総合病院	公立	395		295	95		5	395	12	283	100					12	▲ 12	5		1．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 構想区域内では、藤岡医療圏の高度急性期病床、回復期病床はともに不足することが想定されている。藤岡医療圏、埼玉県北部医療圏の将来想定を踏まえ、地域医療を確保し住民が安心して生活していくために、高度急性期医療の充実と地域包括ケアシステム体制の構築を強化する。外来医療では救急医療体制を強化、入院医療は高度急性期に特化しつつ機能分化･強化を図り、ハイケアユニット入院医療管理料の算定、地域包括ケア病棟・回復期リハビリテーション病棟の充実、訪問看護ステーションの活用、行政機関の藤岡市及び藤岡市国民健康保険鬼石病院等の地域医療機関との更なる連携強化を図る。 2．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 12床を高度急性期病床として運用するため、当該病床についてハイケアユニット入院医療管理料1の届出を目指す。
藤岡市国民健康保険組合鬼石病院	公立	99			52	47		99			52	47								1．地域において今後担うべき役割 ①外来では現在の診療科目を軸とした総合的医療を展開し、専門的医療については基幹病院である公立藤岡総合病院へ紹介する。②入院では、地域包括ケア病床の効率的な稼働を目指し在宅復帰に向けての取り組み、療養病床では医療的処置の高い患者を中心に継続的な医療を提供し、ケアの充実に取り組む。③市内各病院との役割分担、連携強化を行いながら中山間地域での役割を担う。 2．今後持つべき病床機能 現在も初期救急の受入れや急性期治療を終えた患者を積極的に受け入れ、在宅復帰支援を行う機能を有するとともに、一般病床では地域包括ケア病床を展開しており、一定の成果を上げている。一方で医師・医療スタッフの不足、特に常勤内科医の不足は深刻な状況で入院受入に支障が出始めている。派遣元である群大病院や公立藤岡総合病院との連携強化に努め、持続可能な地域医療提供体制を確保すべく努力しているが、由々しき事態となっている。

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（藤岡保健医療圏）②

（2024年3月時点）

1．基本情報	3．医療機能について																								
医療機関名	診療科目	診療科一覧	現在											将来（2025年）											
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児
公立藤岡総合病院	27	内科、精神科、神経内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、歯科口腔外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科　救急科	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
藤岡市国民健康保険組合鬼石病院	10	内科、呼吸器内科、循環器内科、リハビリテーション科、外科、消化器外科、肛門外科、整形外科、眼科、皮膚科				○		○	○								○		○	○				

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（富岡保健医療圏）①

（2024年3月時点）

1．基本情報		2．病床について																		
医療機関名		現在（A）						将来（2025年）（B）							差（B-A）					2025年に向けた病床活用の見通し等 ※公立：公立病院経営強化プランの概要「経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像」「当該病院に係る機能分化・連携強化の概要」から抜粋 ※公的：公的医療機関2025プラン「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」から抜粋
		合計						合計					廃止	介護保険施設等への移行	合計					
			高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等		高度急性期	急性期	回復期	慢性期				高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
公立富岡総合病院	公立	328	32	191	83	18		328	32	191	83	18								1．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 当院は富岡医療圏の基幹病院として機能していく。高齢化という視点では全国平均より30年以上先にあり、心疾患や脳血管関連の超急性期医療は隣接医療圏の超急性期医療機関と連携を図るほか、一般急性期、高齢者の急性期医療には疾患のみならず個人の意思をより尊重した質の高い医療を提供できる体制、具体的には院内外の多職種連携を重視した医療を行う。また、災害拠点病院としての診療機能を維持し、有事の際にも地域の拠点病院として機能する。患者数は減少傾向にあるが質の向上を目指し、適切な病床数と職員数を確保していく。 2．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 ・超急性期医療における隣接医療圏の医療機関との連携。 ・地域の中核病院として急性期医療等の役割を担う。 ・地域包括ケアシステム構築のため他医療機関と連携強化。
公立七日市病院	公立	162			107	55		162			107	55								1．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 ・公立富岡総合病院が急性期医療を担い、当院は慢性期、回復期リハビリテーション、在宅医療を担う役割を果たします。 ・高齢者の内科疾患や神経難病で医学管理が必要な患者を受け入れ、神経難病の在宅医療を支援するためのレスパイト入院の受け入れも行います。 ・患者の在宅復帰支援を目的に、治療とリハビリテーション、多職種が関わる退院支援を充実させ、地域包括ケアシステムを支える役割を担います。 ・脳血管疾患や大腿骨頚部骨折後など急性期治療後の廃用が懸念される患者に集中的なリハビリテーションを提供します。 ・在宅療養支援病院として、外来受診が困難な患者を訪問看護ステーションと協力して訪問診療や訪問看護を実施します。 ・患者の減少傾向の中、医療の質向上を目指し適切な病床数、職員数を確保していく。 2．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 急性期と在宅をつなぐ回復期としてリハビリテーションを強化し、多職種が関わる退院支援を充実させ、患者の在宅復帰支援を行います。 在宅療養支援病院として、他院、他施設、ケアマネと連携し、訪問診療、訪問看護の充実・拡大を図ります。
下仁田厚生病院	公立	48			48			48			48									1．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 ・急性期を担う他の医療機関との連携を強化し、回復期に移行した患者の受け入れを行い、在宅復帰までの医療やリハビリを提供し、支援していく。 ・超高齢化の地域おいて、地域に密着した医療が提供できるよう、訪問看護、訪問リハビリ、訪問診療による在宅医療の充実を図る。 ・訪問看護ステーションの開設により、常に地域住民のニーズに応えるサービスを提供する。 2．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 　当院は、富岡総合病院や他の医療機関で急性期の治療を終え、回復期に移行した患者の転院や在宅復帰支援の受け入れを行い、退院後の在宅医療の提供や外来での継続治療を行っていくことで、回復期の医療機能を担っていく。 　また、増加する在宅医療等の医療需要に対応するため、町や村の地域包括支援センター等との連携を強化し、準無医地区等の実情に配慮した在宅医療・介護サービスの提供体制を検討していき、より良い在宅医療の提供をしていくことを目指す。 　訪問看護を充実させ、高齢者等が安心して過ごせるよう、訪問看護ステーションの開設を検討していく。

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（富岡保健医療圏）②

（2024年3月時点）

1．基本情報	3．医療機能について																							
医療機関名	診療科目	診療科一覧	現在											将来（2025年）										
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児
公立富岡総合病院	20	内科　精神科　神経内科　消化器科　循環器科　小児科　外科　整形外科　脳神経外科　皮膚科　泌尿器科　産婦人科　眼科　耳鼻咽喉科　リハビリテーション科　放射線科　病理診断科　麻酔科　歯科　歯科口腔外科	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
公立七日市病院	3	内科　皮膚科　リハビリテーション科						○											○					
下仁田厚生病院	13	内科・呼吸器内科・消化器内科・糖尿病内科・循環器内科・外科・消化器外科・整形外科・小児科・眼科・泌尿器科・皮膚科・リハビリテーション科	○			○		○	○				○	○			○		○	○				○

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（吾妻保健医療圏）①

（2024年3月時点）

1．基本情報		2．病床について																	
医療機関名		現在（A）						将来（2025年）（B）							差（B-A）					2025年に向けた病床活用の見通し等 ※公立：公立病院経営強化プランの概要「経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像」「当該病院に係る機能分化・連携強化の概要」から抜粋 ※公的：公的医療機関2025プラン「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」から抜粋
		合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
原町赤十字病院	公的	195		131	45	19		195		131	45	19								１．地域において今後担うべき役割 将来は人口減少が加速し医療需要は減少するであろうが、 構想区域での中核的な診療を維持することが責務と考えている。繰り返すが、脳卒中及び心血管疾患への対応を中心とした急性期医療の提供体制は確立できないが、隣接する医療圏との連携強化が非常に大事である。 当院は、機能的には急性期、回復期、慢性期と３機能を備えたケアミックス型の医療機関だが構想区域内で期待される役割は、急性期医療と捉えている。 今後は救急医療を含め急性期医療が十分提供できるよう医師の確保に努めると共に応需出来ない脳血管疾患や心血管疾患においても一次救急として受入れることができるよう体制を確立する事が重要であると考えている 。 救急医療については、特に診療時間内での受入が出来ない場合がある。というのも、医師はいるが業務繁忙で受入出来ない場合や多数受入中で収容場所が無い場合が多くある。 構想地区では、診療所の閉院や一般急性期から回復期や慢性期或いは介護に転じ医療資源の減少が始まっている中で急性期医療の維持は絶対と考えているが、常勤医師の確保はもちろん、当院単独で急性期医療を賄うには限界もあり構想区域西部地区に所在する西吾妻福祉病院との連携が重要と考えている。 ２．今後持つべき病床機能 基本的には、急性期、回復期、慢性期の3機能を維持し、地域包括ケア病棟（回復期）では、在宅へ向けたリハビリテーション等を行う。
西吾妻福祉病院	公立	74		37	37			74		37	37									１．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 ・病院は、２４時間３６５日体制を維持し、住民にとって安心を提供するとともに、住民、行政、他の医療機関、福祉機関、事業者等と連携し、地域包括ケアの体制づくりに努める。 ・また、病院事業と連携し、地域ケア支援センター「えがお」における「訪問看護ステーション（訪問リハビリテーションも含む）」「居宅介護支援事業所」の運営を通して、行政や医療福祉関係施設との連携を高め、住民の多様なニーズに応える。 ・今後当院においても医師確保が困難になるなか、周辺診療所等と連携を密に対応していく。 ２．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 吾妻地域医療構想における当院の役割機能は、基本的に現状を維持する。 ただし、地域包括ケアの実現にむけ、周辺の病院、診療所、福祉施設及び行政機関等との連携を意図するネットワーク化は、検討する可能性あり。また、年３回開催される管理運営協議会において随時検討する体制は整っている。 課題として、地域包括ケアの実現に向け、周辺病院、診療所、福祉施設および行政機関等とのネットワークが構築されていないため、情報等の共有が図れていない状況である。

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（吾妻保健医療圏）②

（2024年3月時点）

1．基本情報		3．医療機能について																							
医療機関名	診療科目	診療科一覧	現在											将来（2025年）											
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児
原町赤十字病院	21	内科、消化器内科、糖尿病内分泌内科、循環器内科、外科、呼吸器外科、整形外科、眼科、皮膚科、婦人科、泌尿器科、麻酔科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、精神科、放射線科、脳神経外科、救急科、緩和ケア科、乳腺外科	○					○	○	○				○					○	○	○			
西吾妻福祉病院	10	内科、外科、循環器科、小児科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、リハビリテーション科、放射線科	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○		○

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（沼田保健医療圏）①

（2024年3月時点）

1．基本情報		2．病床について																		
医療機関名		現在（A）						将来（2025年）（B）							差（B-A）					2025年に向けた病床活用の見通し等 ※公立：公立病院経営強化プランの概要「経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像」「当該病院に係る機能分化・連携強化の概要」から抜粋 ※公的：公的医療機関2025プラン「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」から抜粋
		合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
独立行政法人国立病院機構沼田病院	公的	175		106	55		14	106		51	55		69		▲ 69		▲ 55			1．地域において今後担うべき役割 ○医師確保による診療機能の充実 ・呼吸器（または総合内科）医師確保による肺炎等の肺疾患治療の強化 ・整形外科医師増員による、救急患者の受入と手術件数の増 ・消化器内科、外科医師増員による受入強化 ・麻酔科医師確保による安定した手術件数の確保 ○引き続き、へき地医療や災害拠点病院として地域の中心的役割を担う。 ○近隣の利根中央病院・沼田脳神経外科循環器科病院と引き続き連携を強化しながら急性期から回復期を担い、その他の慢性期病院とも連携して構想区域内での地域完結を維持していく。 2．今後持つべき病床機能 ・地域的特徴として、独居・高齢家族が多く、入院の長期化・在宅での自立を望む患者が多いことから地域包括ケア病棟として２０１６年６月に既に対応済み。 ・当院では、急性期患者の受入の他に、急性期医療機関から回復期への受入、院内急性期から回復期への転床、介護施設から回復期への受け入れ体制と、あらゆる病期に対応できる病床機能を強化・確立するうえで、急性期と回復期の機能を維持することとする。 ・急性期患者の受入としては従来どおりの対応としたいが、昨今の構想区域内の人口減少や高齢者の増加、２０２５年における地域構想の急性期病床の必要数を考慮し急性期病床１０６床を５５床減らした５１床とし、患者動向に合わせ回復期患者への対応をより手厚くできたらと考えている。

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（沼田保健医療圏）②

（2024年3月時点）

1．基本情報		3．医療機能について																							
医療機関名	診療科目	診療科一覧	現在											将来（2025年）											
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児
独立行政法人国立病院機構沼田病院	20	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科	○		○	○			○	○	○		○	○		○	○			○	○	○		○

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（桐生保健医療圏）①

（2024年3月時点）

1．基本情報	2．病床について																		
医療機関名	現在（A）						将来（2025年）（B）							差（B-A）					2025年に向けた病床活用の見通し等 ※公立：公立病院経営強化プランの概要「経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像」「当該病院に係る機能分化・連携強化の概要」から抜粋 ※公的：公的医療機関2025プラン「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」から抜粋
	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
桐生厚生総合病院　公立	420	33	312	75			420	33	312	75									1．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 群馬県地域医療構想によると、当該医療圏は高度急性期および回復期病床が不足になると予測されており、回復期段階の患者への医療及び高齢者への医療等、圏域内における医療需要の変化に伴う患者構成を踏まえた医療の提供も検討していく。また厚労省の示す第８次医療計画である５疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）・６事業（救急医療、災害医療、新興感染症医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）及び在宅医療に対応できる体制の確保を目指していく。さらに機能分化・連携強化の観点から、地域医療機関に対して、当院から医師派遣が可能になるよう大学との連携をこれまで以上に緊密に保ち、安定的な医師確保体制を構築していくとともに、紹介、逆紹介を推進し連携を強化していく。 ２．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 当院が所在する桐生保健医療圏は、「桐生市」と「みどり市」から成り、2市の直近の人口（令和5年6月1日現在群馬県移動人口調査）は約150,000人、面積は約483㎢である。当院を基幹病院とし二次救急医療は5施設で輪番制となる。また、当該医療圏における公立病院・公的病院は当院だけである。医療圏の医師数においては、病院医師数と診療所医師数に分けられるが、病院医師数の減少や診療所の医師の高齢化に伴い閉院する診療所も少なくないのが現状である。病床数について、群馬県地域医療構想では、桐生保健医療圏の病床必要量1,506床(2025年)に対し、令和4年度病床機能報告における病床数は1,668床であり、病床が過剰となっている。人口減少が見込まれる中、稼働病床利用率は72%前後であり、急性期、地域包括ケア、回復期リハビリ病棟のより効率的な運用の検討、ダウンサイジングを含めた再編統合の必要性が出てきている。

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（桐生保健医療圏）②

（2024年3月時点）

1．基本情報		3．医療機能について																							
医療機関名	診療科目	診療科一覧	現在											将来（2025年）											
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児
桐生厚生総合病院	25	内科、精神科、神経内科、消化器内科、小児科、外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓外科、乳腺外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、緩和ケア内科、歯科・口腔外科	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○			○	○		○	○

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（太田・館林保健医療圏）①

（2024年3月時点）

1．基本情報		2．病床について																		
医療機関名		現在（A）						将来（2025年）（B）							差（B-A）					2025年に向けた病床活用の見通し等 ※公立：公立病院経営強化プランの概要「経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像」「当該病院に係る機能分化・連携強化の概要」から抜粋 ※公的：公的医療機関2025プラン「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」から抜粋
		合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
SUBARU健康保険組合太田記念病院	公的	400	28	372				400	36	364						8	▲ 8			・患者支援センターの活用による効率的な病床運用 ・急性期医療の継続的な提供体制 ・紹介率や逆紹介率を高めて、地域病院・開業医との連携を図る ・健診で使用している病床を高度急性期と急性期へ振り向ける（日帰りドックに関しては継続して運用）
県立がんセンター	公立	314		314				314		314										1．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 県立のがん専門病院およびがん診療連携拠点病院として役割を果たし、関係医療機関と連携しながら、県民に安全、安心で質の高い医療を提供している。また、将来にわたり健全な経営を維持できるよう、経営強化の取組を進め、経常収支が黒字化している。 2．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 地域連携機能の強化を図るため、地域医療機関等への訪問を積極的に実施するとともに、地域連携パスの算定件数の増加に取り組む。 「地域がん連携拠点病院」の指定更新を継続するとともに、「がんゲノム医療拠点病院」の指定、低侵襲手術であるロボット支援手術の件数増加を目指すほか、化学療法によるダメージを緩和し脱毛を抑制する頭皮冷却療法の導入等により、患者のQOLの一層の向上を図る。
公立館林厚生病院	公立	323	6	233	84			323	6	233	84									1．経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像 太田・館林二次保健医療圏（構想区域）においては、令和12（2030）年まで75歳以上の人口が増加し続け、医療機能別の医療需要も高度急性期から慢性期までのすべての医療機能で増加すると予測されています。更に、在宅医療の需要も県内有数の増加が見込まれています。これら増大する医療需要に対応できるよう、現状の診療体制のさらなる強化に取り組み、訪問看護、認定看護師の訪問指導による在宅医療サポート機能の強化にも取り組みます。特殊な疾患以外は他の二次保健医療圏に患者を紹介することなく、当院で診断・治療ができる診療体制を目指します。 2．当該病院に係る機能分化・連携強化の概要 邑楽館林地域において、急性期医療を担う当院以外は、専門特化または回復期や慢性期主体の中小民間病院のみとなっています。地域の医療機関と当院が診療の役割分担を行い、外来診療は「かかりつけ医」である地域の医療機関が中心となり、当院は地域医療支援病院として入院診療に重点を置いた専門治療を主に担当し、病診連携、病病連携体制の強化を図っていきます。 当院敷地西側の再開発整備（施設改修）に取り組み、地域の医療機関では対応の難しい合併症治療も必要な透析患者に、より多く対応できるよう透析室の拡充を図ります。また、増加する抗がん剤治療患者に対応するため化学療法室の拡充を図ります。

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。

公立・公的医療機関の対応方針一覧（太田・館林保健医療圏）②

（2024年3月時点）

1．基本情報		3．医療機能について																							
医療機関名	診療科目	診療科一覧	現在											将来（2025年）											
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児
SUBARU健康保険組合太田記念病院	29	内科 / 消化器内科 / 呼吸器内科 / 内分泌内科 / 循環器内科 / 神経内科 / 心療内科 / 腎臓内科 / 泌尿器科 / 産婦人科 / 小児科 / 小児外科 / 外科 / 乳腺外科 / 呼吸器外科 / 血管外科 / 心臓血管外科 / 脳神経外科 / 整形外科 / 形成外科 / 皮膚科 / 眼科 / 耳鼻咽喉科 / 救急科 / リハビリテーション科 / 麻酔科（ペインクリニック） / 放射線科 / 病理診断科 / 歯科口腔外科	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○			○	○		○	○
県立がんセンター	23	内科、外科、呼吸器内科、消化器内科・消化器外科、婦人科、泌尿器科、放射線科、呼吸器外科、形成外科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、精神科、疼痛緩和内科、緩和ケア内科、リハビリテーション科、病理診断科、血液内科、乳腺外科、整形外科、腫瘍内科、頭頸部外科	○											○										
公立館林厚生病院	28	内科、精神科、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、血液・腫瘍内科、消化器内科、内視鏡内科、脳神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、救急科、歯科、歯科口腔外科	○	○	○	○			○	○				○	○	○	○			○	○			

※今後変更の予定があるセルは青色に着色。